

6 / 1

**新たな子育て
支援拠点が誕生**

『富岸子育てひろば』開設

6月1日(火)、市は、老人憩の家「富久寿園」(富岸町)に、地域子育て支援拠点『富岸子育てひろば』を開設しました。これは、子育て中の家族同士の交流や育児相談などを行うため、これまで子育て支援センターを設置していなかった富岸・新生地区の子育て支援の拠点施設として、市内で初めて公共施設を活用し、開設したものです。

運営は、市内のNPO法人『登別自然活動支援組織モモンガくらぶ』に委託。開設初日から近隣に住む親子が訪れ、室内に用意された絵本やおもちゃで自由に遊んでいました。

『富岸子育てひろば』は、祝日と12月31日・1月5日を除く毎週火・木・土曜日の10時～12時と13時～15時に開設しています。



6 / 4

**同世代の主張に
耳を傾ける**

第27回登別市少年の主張大会

6月4日(金)、幌別中学校で『第27回登別市少年の主張大会兼少年の主張胆振総合振興局地区大会予選会』(登別ライオンズクラブ、登別中央ライオンズクラブ、市主催)が行われました。

大会には、市内の中学校の代表10人が出場し、意見発表では、家族との別れや家族の苦労、学校活動や友人との交流などを通して体験したり、感じたことを踏まえて、自分の考えや決意などを、傍聴する生徒や大人たちに訴えました。

発表後の審査の結果、最優秀賞には、『祖母に伝えたい言葉』を演題に、亡くなった祖母の生き方に倣い、一瞬一瞬を大切に生きていこうと誓った、西陵中学校の野村夢加さんが選ばれました。

野村さんは、7月に行われる胆振総合振興局地区大会に出場します。



5 / 22

武家時代に時代旅行

わんぱくサムライ体験

5月22日(土)、郷土資料館で『わんぱくサムライ体験』(市主催)が開かれ、青空の下、約350人の市民が春の一日を楽しみました。

この催しは、子どもたちに武家時代の生活や日本の伝統文化を体験してもらおうと、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』やスポーツチャンバラ協会登別支部、登別伊達時代村などの協力により毎年この時期に開催しています。

会場では、流鏑馬やスポーツチャンバラ、駕籠、昔の遊びなどの体験コーナーのほか、太鼓や南京玉すだれ、よきこいソーランの披露、わたあめ、ポップコーン、せんべい焼き、すいとんの試食が行われました。

中でも、子どもたちの人気を集めたのが、木馬にまたがって弓を射る流鏑馬体験。編みがさと陣羽織を身にまとった子どもたちが、緊張した表情で約3メートル先に向けて弓を射ると、矢が命中するたびに見守っていた市民から大きな拍手と歓声が上がっていました。

また、この日は、同館前庭に植えられた9種類のサクラの多くが開花していて、訪れた市民の目を楽しませていました。

